

再評価結果（令和6年度事業継続箇所）

担当課：道路局国道・技術課

担当課長名：高松 諭

事業名	四国横断自動車道 <small>あなんしまんと</small> 阿南四万十線 <small>あなん とくしまひがし</small> 阿南～徳島東		事業区分	高速自動車国道	事業主体	国土交通省 四国地方整備局
起終点	自：徳島県阿南市下大野町渡り上り 至：徳島県徳島市東沖洲				延長	17.3km
事業概要 四国横断自動車道は、阿南市を起点に、徳島市、高松市を経て四国中央市において四国縦貫自動車道と交差し、高知市、四万十市を経て大洲市に至る高規格幹線道路である。この路線は、四国の東南地域、西南地域のミッシングリンク（高速ネットワーク空白地帯）を解消し「四国8の字ネットワーク」を形成することで、四国における信頼性の高い道路ネットワークの確保や地域格差の解消など、広域交流と地域の「安心」と「活力」を支える重要な路線である。 阿南～徳島東間は、新直轄方式により整備される区間であり、徳島東南地域のミッシングリンク解消のために計画されている地域高規格道路「阿南安芸自動車道」と相まって、徳島東南地域の発展に重要な役割を果たすことが期待される。						
阿南～小松島：H15年度事業化 小松島～徳島東：H10年度事業化		阿南～小松島：H8年度都市計画決定 (H12、H18年度変更) 小松島～徳島東：H6年度都市計画決定 (H19年度変更)		阿南～小松島：H19年度用地着手 小松島～徳島東：H20年度用地着手		阿南～小松島：H19年度工事着手 小松島～徳島東：H27年度工事着手
全体事業費	約2,034億円	事業進捗率	約80%	供用済延長	2.4km	
計画交通量		27,400～30,000台/日				
費用対効果 分析結果	B/C (事業全体) 1.1 (1.6) (残事業) 2.0 (7.8)	総費用 (残事業)/(事業全体) 3,685/12,927億円 事業費：3,315/12,106億円 維持管理費：318/582億円 更新費：51/238億円	総便益 (残事業)/(事業全体) 7,484/14,159億円 走行時間短縮便益：6,498/12,289億円 走行経費減少便益：784/1,481億円 交通事故減少便益：202/388億円	基準年 令和5年		
感度分析の結果 (事業全体)交通量：B/C=1.02～1.2 (交通量±10%) (残事業)交通量：B/C=1.8～2.3 (交通量±10%) 事業費：B/C=1.1～1.1 (事業費±10%) 事業費：B/C=1.9～2.2 (事業費±10%) 事業期間：B/C=1.1～1.1 (事業期間±20%) 事業期間：B/C=1.9～2.1 (事業期間±20%)						
事業の効果等 ①円滑なモビリティの確保 ・現道等の年間渋滞損失時間の削減が見込まれる ・現道等における混雑時旅行速度 20km/h 未満である区間の旅行速度の改善が見込まれる ・現道等に当該路線の整備による路線バスの利便性向上が見込まれる ・徳島阿波おどり空港へのアクセス向上が見込まれる ②物流効率化の支援 ・徳島市から徳島小松島港（重要港湾）へのアクセス向上が見込まれる ・県南部における農林水産品（阿波尾鶏、生しいたけ、にんじん等）の流通の利便性向上が見込まれる ③国土・地域ネットワークの構築 ・地方拠点都市「徳島東部」～「なんごく・こうち」を連結する四国8の字ネットワークの一部を構成する ・日常活動圏中心都市間を最短時間で連結する路線を構成する ④個性ある地域の形成 ・辰巳工業団地、大湊新浜工業団地、わじき工業団地、徳島県南部健康運動公園の利活用を支援する ・徳島県次世代LEDバレイ構想を支援する ・主要な観光地へのアクセス向上が期待される（うみがめ博物館、太龍寺ロープウェイ等） ⑤安全で安心できるくらしの確保 ・三次医療施設（徳島赤十字病院）へのアクセス向上が見込まれる ⑥災害への備え ・第一次緊急輸送確保路線に指定されている現国道11号、55号が通行止めになった場合の代替路線を形成する ⑦地球環境の保全 ・CO2排出量の削減が見込まれる ⑧生活環境の改善・保全 ・NOX排出量の削減が見込まれる ・SPM排出量の削減が見込まれる ⑨他のプロジェクトとの関係 ・徳島小松島港津田地区地域活性化計画と連携 ・マリニピア沖洲整備計画と連携						

関係する地方公共団体等の意見

地域から頂いた主な意見等：

- ・徳島県、徳島市、小松島市、阿南市や周辺の市町村及び阿南市高規格道路等建設促進期成同盟会等より、本事業の整備促進について、積極的な要望活動が続けられている。
(令和2年度 計20回、令和3年度 計14回、令和4年度 計26回、令和5年度 計10回)

徳島県知事の意見

- ・「四国横断自動車道 阿南四万十線 阿南～徳島東」の「事業を継続する」という「対応方針（原案）」案については、異議ありません。
- ・「四国横断自動車道」は、「四国8の字ネットワーク」を形成し、本県の経済産業の発展や観光振興を支えるとともに、「南海トラフ巨大地震」をはじめ、災害から県民を守り、「魅力度」や「安心度」の向上に資する重要な社会基盤であります。
- ・このため、県といたしましては、立江榑渚地域活性化インターチェンジの整備等に全力で取り組んで参りますので、「立江榑渚・阿南間」の令和7年度の確実な供用はもとより、1日も早い全線供用をお願いします。
- ・加えて、事業の実施にあたっては、昨今の急激な物価や労務費の上昇による影響を極力抑えられるよう、引き続き、コスト縮減をお願いします。

事業評価監視委員会の意見

「事業継続」とする事業者の判断は「妥当」である。

事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等

- ・平成23年3月 (主) 徳島環状線 川内町大松～平松 延長1.3km 開通
- ・平成23年4月 桑野道路事業化
- ・平成23年7月 日和佐道路 延長3.1km 2車線 開通
- ・平成24年4月 阿南安芸自動車道 福井道路 延長9.6km 事業化
- ・平成24年12月 (主) 徳島環状線 川内町平松～住吉 延長3.7km 開通
- ・平成27年2月 徳島南環状道路 上八万IC～法花IC 延長1.9km 開通
- ・平成27年3月 徳島自動車道 鳴門JCT～徳島IC 延長10.9km 開通
- ・平成27年7月 津田IC(仮称) 連結許可
- ・令和元年9月 立江榑渚IC(仮称) 連結許可
- ・令和2年3月 阿南道路 那賀川町中島～西路見町江川 延長2.1km 4車線化完成
- ・令和2年10月 徳島津田IC 阿南方面出入口 連結許可
- ・令和3年3月 四国横断自動車道 阿南四万十線 徳島津田IC～徳島沖洲IC 延長2.4km 開通
- ・令和4年3月 四国横断自動車道 阿南四万十線 徳島沖洲IC～徳島JCT 延長4.7km 開通

事業の進捗状況、残事業の内容等

- ・平成10、15年度に事業化、用地進捗率約98%、事業進捗率約80%（令和5年3月末時点）

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

- ・早期供用に向け、調査設計、用地買収、改良工事を推進。

施設の構造や工法の変更等

- ・今後も新技術、新工法の採用による工事コストの縮減に加えて、施設の長寿命化や維持管理費を考慮した構造の採用等、総コストの縮減に努めていくこととする。

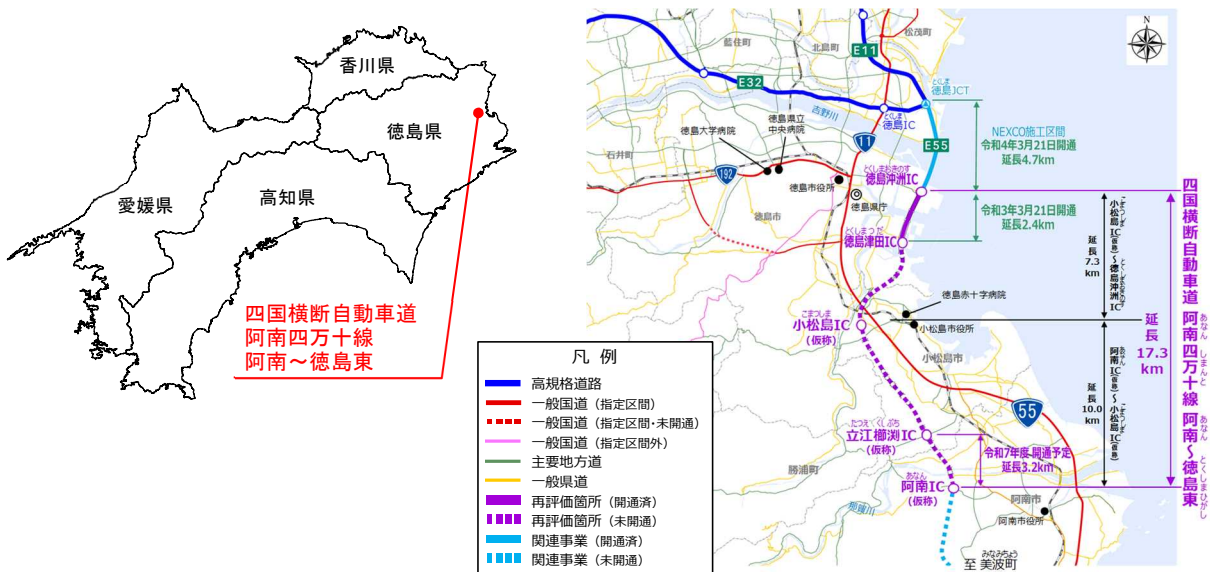
対応方針

事業継続

対応方針決定の理由

- ・以上の状況を勘案すれば、事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。

事業概要図



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。

※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。